

# 進路だより

発行：平成28年1月8日

## 1 BATT@N ～卒業生による進路だより～

さて、続いては関東方面の私立大学の特集です。関東方面にはたくさんの大学があり、学べることも様々です。実際に一人暮らしを経験した卒業生の体験談は必読モノです！ぜひ目を通してくださいね。

### 【慶應義塾大学 経済学部】 白井悠香

- ① 慶應と言われると少しお金持ちな人が多いというイメージを持つ人も少なくないかもしれませんが。時には大手企業の社長の息子のような人に出会うこともあります。実際に友だちを作ってみるとそこまで強く意識することはありません。しかし慶應で出会う多くの人がある大学の学生に比べて品が良いということも事実です。家が飛び抜けたお金持ち出なくても品があるなあと感じることは多々あります。また、慶應に通っている人の中には慶應が第一志望だった人もそうではない人もいますが、一様にみな慶應生であることを誇りに思っているように思います。これは慶應を卒業した人にも言えるようで、サークルや早慶戦の応援などでOBさんとの関わりを深めることも少なくありません。これが就職において有利に働くこともあるということは慶應の特色であり利点かもしれません。また、他大学の友人の話を知っていると、慶應には浪人生や地方出身者が比較的多いように思います。自分とは異なる地方から上京してきた友人と話すとても新鮮で楽しく感じられます。
- ② 経済学部の進路先は多岐にわたっており、商社や保険会社など大手企業への就職も多く耳にします。また経済学部や商学部の学生には公認会計士を目指す人も少なくありません。公認会計士の資格を取るのには簡単なことではありませんが学校のすぐ近くにいくつか公認会計士の資格をとれる予備校があるのでそこに通い、ダブルスクールという形をとって勉強する人もいます。また第1種国家公務員の資格を取り、官僚を目指す人もいます。自分が将来やりたいと思うことに向かって努力する気持ちがあれば何でも叶えられる環境が整っているように思います。
- ③ 自由な時間が多い分自分で生活をコーディネートすることになるのでサークル、アルバイト、学業のバランスをとりながら高校生までとは全く違う生活を送っています。わたしは両親から離れて一人暮らしを始めたのでその面においても生活はがらりと変わりました。家事炊事を全部自分でやらなければいけないのは正直大変なことですが、自分が生きていくために必要なことでもあるので一人暮らしという環境で自分の身の周りのことを自分でやらざるを得ない状況に置かれたことはある意味ラッキーだったかもしれないと思っています。サークルでできた先輩や友人は、サークルの活動内だけでなく休日や授業の後に会って遊んだり食事をしたりと楽しい時間を過ごす仲間にもなっています。また大学に入って初めてアルバイトを始め、今まであまり関わることの多くなかった年上の人と関わるが増え、さらに学校とはまた違う世界を知りました。また資格を取るための勉強などに自由に時間を使うこともでき、充実した時間を過ごしていると感じています。

### 【慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科】 柏木秀治

- ① 僕が通っている慶應義塾大学環境情報学部は、SFC（湘南藤沢キャンパス）にあります。SFCの主な特徴は大きく2つあります。1つ目は、入試科目です。慶應を含む多くの私学では科目数が限られていると思います。その中でもSFCは(2016年度入試から少し変更されましたが)「数学または情報」「英語」「数学と英語」のいずれかに小論文を加えた形式というシンプルなもの。2つ目は、学ぶキャンパスについてです。慶應義塾大学の多くの学部はまず日吉キャンパスで1-2年学び、その後三田キャンパスで学びます。一方、SFCの環境情報学部と総合政策学部は基本的に4年間SFCで学びます。
- ② 環境情報学部と総合政策学部がありますが、この2つの学部の間には必修の授業が1つ違うこと以外、何一つ違いはありません。取れる授業も全く一緒です。要するにどちらの学部に入ろうと、することは99.9%同じです。そして、肝心の学べることですが、世界の政治に関する授業からプログラミングに関する授業まで様々なジャンルから選ぶことができます。そのため、自ずと卒業後の就職なども十人

十色といった感じになってきます。まだ将来やりたいことがなかなか定まっていない人は、ここに来て様々なジャンルの授業を経験しながら将来へのビジョンを見極めるのもアリかもしれません。

- ③ ①に挙げた内容はSFCについて調べるとすぐに出てきます。なので、ここからは実際に入学して感じたことを書いていきたいと思います。まず、入学前に持っていたSFCに対する多少の劣等感や入学して拭われました。確かに入試科目が少ないことやキャンパスが離れていることに変わりはありませんが、実際に日吉キャンパスを中心に活動しているサークルに入っても、特に雰囲気の違いやアウェー感を感じることはないのです。また、学業の面ではSFC生も4年間SFCで学ばなければならないわけではなく、4年間の間で60単位分まで他のキャンパスで受講することができるので僕もどこかのタイミングで三田キャンパスで授業を受けてみたいと思っています。

## 【早稲田大学教育学部理学科生物学専修】 川田健斗

- ① 早稲田大学は日本最大級の私立大学ということもあり、生徒数が多いため、その分とても多くの授業が開講されています。何百何千もの授業の中から自分の好きなように時間割が組めるのは早稲田のいいところです。サークルやバイトに合わせて組むのもよし、興味がある授業を取るのもよし、楽に単位がとれるという噂の授業をとるのもよし、自由に授業を受けることができます。もちろん多くのサークルもあり、サークルの数は日本一と言われていています。自分のやりたいことは何でもできるというのも早稲田の大きな魅力です。
- ② 僕の所属している理学科生物学専修では、1年次には生物学の基礎講義や化学実験、物理学実験などが必修科目となっています。また、学年が進むにつれ、生物学実験や泊まり込みの野外実習なども必修科目に設定されています。生物を主に学びつつも理科全般にわたる広い知識を身につけることができます。1年前期には生化学、基礎生物学、細胞生物学といった大学生物の講義があったり、生物統計学という授業ではパソコンを用いて食う食われるの關係のシミュレーションをしたり、とても興味深い授業ばかりです。理学科を卒業された先輩方の主な進路は大学院進学が半分、残りは理科の教師や企業に就職するようです。4年後、僕はどのような道に進んでいるかは分かりませんが、大学4年間でいろいろなことを経験し、進路を決めていきたいと思っています。
- ③ 僕は早大稲友テニスクラブというテニスサークルで日々汗を流しています。練習回数も多く、合宿や大会を含めた様々なイベントがかなりの頻度で行われるため、とてもお金はかかりますが充実した日々を過ごしています。また、東京での一人暮らしは初めは不安でしたが、東京の大学ということもあり全国から人が集まってくるため一人暮らしをしている友達が多く、高頻度で泊まりにいたりきってもらっているため、寂しさも紛れます。一人暮らしを始めると、家事全般を自分でこなさないといけないのは辛いですが、その分自由も増えるので、いい経験だと思っています。
- 大学に入っても少なからず勉強はしなければいけません、自由な時間は増え、今のところとても楽しく充実した毎日を送ることができています。

## 【東京女子体育大学体育学部体育学科】 西田衣梨甫

- ① 体育大学は普通の大学と違って、ノリはいいし体育大会は本気だし、とりあえず元気な大学です！講義等はもちろん、部活に集中できる環境が整っています。先輩や同学年に日本代表として活躍している選手がいたり、日本代表として活躍した方が学生の指導をしたりと、毎日様々な所で良い刺激を受けられます。先輩後輩も仲が良く、色んな部活の人と関わることが出来ます。
- ② 大学には体育学部しかなく、3年生になったら自分の希望就職先によってコースに分かれます。体育大学の就職先は体育教師やスポーツ施設はもちろん、他にもテレビ局や区役所等様々な就職先に勤めることが出来ます。勉強や実技、実習などを通して、様々な経験をすることが出来ますし、また部活やボランティア活動等でもたくさんのお金を学べる機会があります。実技とか得意じゃない人でも、やる気さえあれば出来るまで指導して下さいます。
- ③ 関東に来て部活をしながらバイトをし、一人暮らしを始めましたが、甘い気持ちでやるものではなかったなと後悔することが多々あります。毎日のように身近な人への感謝の気持ちや将来に備えること、お金の必要性、家事の面倒くささ、バイトのしんどさなどたくさんのお金を考え、感じさせられます。しかし、良いこともあります。一人暮らしは自分のやりたいように出来るし、友達呼べるし、一人の時間も自分で作れますし、楽な点もたくさんあります。
- 本気でスポーツやりたいとか、スポーツ関係の仕事に就きたいとか考えてる人は先生通して気軽に連絡してください。待ってます。